

## 地方創生最前線

### 今、自治体の何を、どう創生すべきなのか？

2018年11月23日 13:30~17:50

明治大学 グローバルフロント2F 4021教室



舟橋 貴之  
富山県立山町長



黒澤 弘  
長野県小海町長



川島 高峰  
明治大学・政治学博士  
情報コミュニケーション学部准教授

13:35 - 14:05 問題提起・川島高峰  
14:05 - 14:30 立山町学生取組報告  
14:30 - 14:55 小海町学生取組報告

15:00 - 15:30 舟橋貴之・立山町長報告  
15:30 - 16:00 黒澤 弘・小海町長報告  
16:00 - 16:30 質疑応答

#### 開催にあたって 川島 高峰

本シンポジウムでは明治大学情報コミュニケーション学部・川島高峰ゼミナールの学生に地方創生の協働学習の場を提供していただいている富山県・立山町の舟橋貴之町長、長野県小海町の黒澤弘町長と共に自治体と地方創生の現在・未来を考えていきたい。

富山県立山町は日本三大霊山の立山や黒部ダムなどがあり山岳信仰・近代アルピニズムと山に関わる文化で知られる。舟橋貴之氏はこの立山で2006年から現在4期目となるベテラン町長であり、様々な地方創生活動に取り組まれてきた。

長野県小海町は有名な「北風小僧の寒太郎」(NHK みんなのうた)として作詞家・井出隆夫が故郷を歌に描いた町であり、近年では国際的に有名な映画『君の名は』で新海誠監督が随所に自身の郷里を描いている。黒澤弘氏はこの小海町で長らく企業経営にあたり、本年二月より町長となり、民間企業の経験を活かした町政にのぞもうとしておられる。

平成の大合併(1999~2010年)は自治体の行財政の健全化、合理化を目的に自治体を半減させたが、何が創生されたのだろうか? 一時は道州制も謳われたが、その約10年後、今度は自治体消滅が叫ばれるようになった。日本の自治体政策は公平性担保と危機回避の性格が強いが、公共性を護ろうとしてついに地域社会という究極の公共性の喪失に直面している。コンパクト・シティなどの対案もあるが、一極集中の大都市化で損なわれた地方を、多極的な都市化で補うことには限界があり、そもそも「都市化」ではない発想、「都市」にはない価値に腹を据える必要がある。

国連は今世紀の半ばには世界人口の過半が都市部に集中し、地球の環境・資源エネルギーは数十億人単位の都市文明社会を維持できないと予測している。一極集中の弊は地球規模課題であり、課題先進国と言われる日本での地方創生活動は21世紀の地球規模課題の最前線なのである。